

重度難聴・知的障害のAさんが伝え合う力を育み、人と関わりながら学校生活を送ることを目指して ～公立小学校での自立活動を中心とした教育課程の工夫を通して～

加美町立広原小学校 特別支援教育コーディネーター
主幹教諭 佐々木 由美

1 主題設定の理由

Aさんは1歳半で感音性難聴と診断を受けて補聴器を装着し、2歳11ヵ月で左耳の人工内耳手術を受け、少しずつ音を聞きリハビリテーションを仙台の病院で行っていた。また、知的障害の他に左手足の軽度麻痺、咀嚼障害・誤嚥のリスクなども抱えていて、発達の遅れやてんかんの病気もあり、別の病院へも通っていた。入学前は、聴覚支援学校の幼稚部へ通い、言葉の学習や友だちや先生との触れ合いを体験し、とろみを付けた食品を中心とした給食を食べることもしていた。幼稚部は、住居から遠く、働いている母の代わりに、祖母が往復約1時間半をかけて送迎していた。また、小学校入学前の5歳の時に右耳も人工内耳手術を受け、両方の耳でバランスよく音を聞くようになった。

小学校入学時に、住居区域内の公立小学校に入学した理由は、高齢の祖母は足腰が悪く支援学校までの送迎が大変なこと、兄と一緒に地域の学校へ通わせ、たくさんの友だちと関わらせたいという母親の願いなどがあつた。教育委員会もその母の意志を受け、当該小学校に難聴学級を設置、私が異動し担任することとなった。

Aさんとの出会いは小学校の入学式の日であつた。体がとても細くて小さい、今にも折れそうな手首であつた。可愛らしく笑顔でお辞儀をし、名前を呼ばれた時に合図をすると「あい。」と声を出し右手を挙げた。しかし入学式の間もその後の学級活動でも、全ての時間、誰かがずっとそばについていないと、何も分からないし、危険なこともあるという状態のAさんであつた。Aさんが、公立の小学校で学校生活を送っていくことには、様々な困難があると考えられた。しかし、学校という社会の中で、友だちや先生と関わりながら生活できたという自信が、将来社会の中で自立して生きていくための大きな力となると思われる。そのためには、まずは相手が自分に伝えたいことを理解し、自分が伝えたいことを相手に伝える、といったことを可能にしていかなければならない。本研究は、Aさんの能力の可能性を探り、伝え合う力を身に付けさせること、そして人と関わり合いながら楽しく学校で生活できるようにさせていくことが目的である。本校の環境の良さや、人的素材の良さなどを生かして、教育課程の工夫を行い、Aさんの成長につなげていきたいと考え、本主題を設定した。

2 入学時の実態と指導目標設定

まずは、Aさんの入学当初の生活能力を、自立活動の内容項目を中心に分けてみた。そして、Aさんが入学前に行っていた聴覚支援学校幼稚部の先生やリハビリの先生などのアドバイスを受けながら、教育課程の編成にあつた。

○ 本児ができること・できないこと（入学当初）

項目	自分でできること	自分一人ではできないこと
健康の保持	食べる・飲む（介助あり）。 薬を飲む（介助あり）。 トイレへ行く（排便排尿）。	洗顔、歯磨き、うがいをする。 スプーンやフォーク・箸を使って一人で食べる。 ストローやコップでこぼさずに飲む。 前歯で噛み切る、すする。 着替え、入浴、トイレでおしりを拭く。
心理的な安定	教室で短い時間座っている。 友だちと仲良くする。	やりたい事を我慢する。 感情をコントロールする。
人間関係の形成	あいさつ（お辞儀やタッチ）する、謝る。 楽しく遊ぶ。 感情表現をする。 相手を攻撃する（叩く蹴る、など）。	ルールを守る。 みんなと同じ活動をする。 欲しい物を我慢する。

環境の把握	自分の家、教室などを判断する。 どこに何があるか覚える。 臭いが分かる。	音がどの方向から聞こえるか分かる。 今何をする時かを判断する。
身体の動き	座る、立つ、歩く、走る。 (6歳までインソール使用) 手で物を持つ、運ぶ(左は弱い)。 右指で物をつかむ。 引っ張る、押す、投げる。 体を前に曲げる、少しひねる。 ある程度姿勢を保持する。 指を差して方向を示す。 ボールを少し蹴る、投げる(小)。	跳ぶ、階段を一人で上り下りする。 左指で物をつかむ。 はさみで切る、紙を折る。 絵を描く、字を書く。 本を1ページずつめくる。 ズックを履く。 ボタンをはめる、はずす。 チャックを閉める、開ける。 ボールを受け取る。
コミュニケーション	「はい」という返事ができる。 「あー」というあいさつやお辞儀ができる。 バイバイと手をふる、タッチする。 少しの手話(不正確)、感情表現ができる。 聞いて、言葉が少し分かる(1~2歳児程度)。 仲良くするという表現ができる。 相手の感情が大体分かる。	人が話している内容が分かる。 手話が分かる、できる。 話す。 平仮名が読める、書ける。 片仮名が読める、書ける。 自分の言いたいことを何らかの方法で伝える。
その他	看板を見て店や病院が分かる。 色が分かる(信号も)。 車の音など危ない音が大体分かる。	自分で並ぶなど集団行動をする。 自分で判断する。 時刻・時間が分かる。

上記から分かるように、小学校で指導する集団行動は、一人ではなかなか難しい状態である。また、会話ができないこと、自分の意思を伝えられないことは、学校生活を送っていく上で大きなハンディキャップである。これから発音練習を重ねていけば、少しでも話せるようになるのかどうか、手話は覚えられるのかどうか、その他の意思の伝達方法はあるのかどうか、2年間の指導を通して可能性を探っていく。と同時に、社会生活を送っていく上で必要な力の育成するための学習内容を、自立活動や生活単元学習、各教科の中にどう盛り込んでいくか、そして楽しく学べるものにできるか、様々な検討をしていかなければならない。

教育課程編成の方向性を明確にするために、これから実践していく学習や活動により、卒業までにどんな力を付けさせておきたいかを、長期目標として設定した。

小学校卒業までの指導目標(長期目標)

- ◎基本的な生活習慣を身に付け、運動をして筋力と体力を身に付けて、自分のことは自分でできるようにする。(歩行、排泄、着替え、食事など)
- ◎生活に必要な言葉や数などを覚え、手話や音声、筆談などで自分の意思を表現し、あいさつや会話ができるようにする。
- ◎手指を使う練習をし、字を書いたり、絵を描いたり、工作したりができるようにする。
- ◎良いこと・悪いこと、社会的常識の大体が分かり、感情をコントロールして周囲の人々と共に生活していくことができるようにする。

3 研究目標

- ◎ Aさんが伝え合う力を身に付け、人と関わりながら学校生活を送っていくために、どのような学習や活動を設定し、継続実践していけばよいのかを、様々な学習活動を試しながら探り、Aさんの能力の可能性を見極め、より効果的な教育課程を編成する。

4 研究の視点(2年間)

(1) 言葉や数を覚えることの可能性や表現する手段を探るための、各教科・生活単元学習など教育課程の工夫

- ① 国語・算数・生活単元学習などの授業の中では、口話・手話・文字・絵カード・音声の出る学習パッドなどを使用し、具体物や半具体物も利用しながら理解を図る。また平仮名や数字を書く事な

どを試してみる。

- ② 生活単元学習や図工の授業の中では、絵を描いたり、物を作ったりの体験を多く取り入れる。
- ③ 体育や音楽の授業を、できるだけ同学年の協力学級の中で行い、友だちや協力学級担任と関わりながら学ぶ時間を設ける。

(2) 人と関わる力や体全体の運動機能を高めるための自立活動の工夫

- ① 特別支援3学級合同の自立活動を週に3回（4月は5回）行い、その内容を工夫することで、友だちと関わりながら学んだり楽しんだりする体験を積み重ねる。
- ② 学級で担任と1対1で行う自立活動では、発音練習の他、手指を使った作業を取り入れた遊び、手足のストレッチや歩行、走行、跳躍などのリハビリも取り入れる。

(3) 学校という社会の中で人と関わりながら生活していくための日常生活、行事・活動などへの取組

- ① 学校の先生の名前を覚え、毎朝あいさつするなどできるだけ関わりをもたせるようにする。
- ② 行事やたてわり活動などは、できるだけ全校児童と同じように参加させ、多くの友だちや先生と関わるようにする。

5 研究の実際

(1) 各教科・生活単元学習など教育課程の工夫

教科など	ねらい	本児の学習内容
国語 週5h (2年目は週7h)	語彙数を増やし、平仮名で表現することができる。声や手話で伝えることができる。 本を読んで(見て)内容を理解することができる。	・絵カードを見て、学習パッドで平仮名をタッチして音声を出す。 ・教師の発語を聞いて、絵カードを選ぶ。 ・手話で自分の言いたいことを伝える。 ・平仮名の練習をする。自分の名前やお母さんの名前、簡単な言葉を平仮名で書く。次に主語と述語で簡単な文を書く。 ・本の内容を、手話や文字カードで理解する。
算数 週4h	5までの数を理解し、数えることができる。	・皿の上のおはじきを数え、1～5の数字カードを置く。また学習パッドで数字をタッチして音声を出す。 ・示された数字の分、おはじきを皿の上に乗せる。 ・数字を書く練習をする。 ・簡単な「あわせるといくつ(たし算)」の練習をする。(1+2や2+2, 2+3など)
生活科 週1h	草花や虫とふれあい季節の違いを感じたり、動植物に興味関心をもったりすることができる。	(時々協力学級で) ・草花の名前を知る。平仮名で表す。草花で押し花をしたり、色水を作ったりして遊ぶ。 ・虫探しをしたり、捕まえたり、虫カゴで飼ったりする。
体育 週2h 音楽 週1h	CDから流れる音楽や友だちが歌う歌に合わせて歌ったり、打楽器でリズム打ちをしたりできる。	体育(協力学級で) ・みんなと一緒に体操したり、走ったり、体を動かす。 音楽(時々協力学級で) ・CDを聴いて、音楽に合わせて手話をしたり、声を出して歌ったり、踊ったりする。笛を吹く練習をする。
図工 週1h 生活単元学習 週2h	絵を描いたり、工作したりして、季節の行事を知ったり、誰かにプレゼントしたりできる。	図工(時々協力学級で) ・みんなと一緒に同じ物を作る、描くといった活動を、教師が手伝いながら自分でできる部分はできるだけさせる。 生活単元学習 ・季節の行事に合った物を作り、飾って、会を楽しむ。 ・作った物を利用して『お店屋さんごっこ』や『レストランごっこ』『ままごと』などをする。
日常生活の指導 週1h (2年目はなし)	1日の学校生活の仕方の他、手洗いうがいの仕方、トイレの使い方などを覚え、自分でできる。	・朝学校に来たら、外靴を下駄箱に入れる。上靴を履いて、教室へ行き、ランドセルの中身を机の中に入れる時の仕方、連絡帳の出し方などを練習する。 ・着替えの仕方、服のたたみ方などを練習する。 ・トイレの使い方、手洗いうがいの仕方を練習する。 ・休み時間の過ごし方、休み時間と授業時間の区別を知る。
自立活動 週8h	学校や社会の中で、人と関わり合いながら生活していくスキルを高める。	*内容は後述(2)



体育でみんなと体操



生活単元学習「買い物ごっこ」



国語「サラダで元気」

(2) 自立活動の工夫

① 3学級合同の自立活動

本校の特別支援学級は難聴、知的、情緒の3学級があり、児童数はAさんを入れて4名である。合同の自立活動は週3回1時間目に行っていた。(4月は週5回)

曜日	ねらい	活動内容
月	<ul style="list-style-type: none"> ○自己紹介ができる。 ○自分のことを話したり、友だちの話を聞いて質問したりすることができる。 ○色々な物語に触れ、豊かな心をもつことができる。 ○物語を基にしたクイズに答えることができる。 ○外を歩いたり、草花に触れたりして、校庭のどこに何があるかを理解したり覚えたりすることができる。また、友だちと楽しく遊ぶことができる。 ○時間を守ることができる。 ○校舎内を探検しながら、校舎のどこにどんな教室があるかを理解したり覚えたりすることができる。また、並んで歩くことができる。 	スピーチ 絵本や紙芝居の読み聞かせ 散歩
水	<ul style="list-style-type: none"> ○(スピーチは月曜日に同じ) ○音楽に合わせてダンスを踊り、リズム感を養うと共に、リズムに合わせて体を動かす楽しさを味わう。 ○手指を使って、ペンやクーピーで描いたり、はさみで切ったり、のりやセロハンテープなどで貼ったりすることができる。アイロンビーズや折り紙、画用紙などを使って、作りたい物を作ることができる。 ○ゲームのルールを知り、それを守りながら友だちと仲良くゲームをすることができる。勝ちや負けにこだわらず、楽しむことができる。 	スピーチ ダンス 制作活動やゲーム
金	<ul style="list-style-type: none"> ○(スピーチは月曜日に同じ) ○SST カードの絵を見て、いけない行動には手で×を示したり、良い行動には手で○を示したりすることができる。 ○色々な運動を体験し、体育で行う活動の基礎となる動きができるようにする。 ○できないことができるようになる喜びを知る。 ○友だちと一緒に体を動かすことの楽しさと喜びを知る。 ○学年の体育で行う運動や縄跳びなどの事前練習をする。 	スピーチ ソーシャルスキル 運動やゲーム



合同自立活動 スピーチ



ゲーム「輪投げ」



散歩で「ヤッホー」



七夕会

②担任と1対1で行う自立活動

<発音練習>

- ア ろうそく消し…ろうそくの火を、息をふいて消す。
- イ ストローでブクブク…コップの水にストローを入れ、息をふき水中に泡を出す。
- ウ 発音練習…「あー」「まま」「あんぱんまん」「ばば」など、文字カードを見て発音する。



<手話練習>

- ア 手話…手話絵カードを見て、手話で表す。
- イ 手話歌…歌に合わせて、教えられた手話で表現する。
- ウ 指文字…自分の名前を指文字で表す。先生方の顔写真と名前（平仮名）カードを照らし合わせる。指文字で名前を表す。



<手指の運動>

- ア 動物ピック…ピックを指でつかみ、動物の名前が書いてある粘土キャップに刺す。
- イ 紐通し…色々な大きさと形の数珠の穴に紐を通す。
- ウ ボタンはめ…大きめのボタンをはめる。



<手足の運動>

- ア ストレッチ体操
- イ 歩く、走る、階段の上り下り、跳ぶなどの運動



*聞く訓練や発音指導は、リハビリの病院でも、2ヵ月に1回程度、40分位指導を受けている。

*言葉の学習、発音指導、手話指導については、入学前まで通っていた聴覚支援学校でも、2ヵ月に1回程度、1時間位指導を受けている。

(3) 日常生活、行事・活動への取組

毎朝、健康観察簿を持って職員室へ行き、職員室にいる先生方一人一人にあいさつをする。その時には、一人一人の先生の名前を指文字で表し、「おはようございます」は手話と音声で表す。そして、出欠板に欠席人数(0)を記入する。掃除の仕方、給食当番(ストロー・牛乳配りなど)、トイレ、手洗い歯磨き、うがいの仕方などは担任や教員補助がその都度やり方を教えながら学ばせる。着替えは人口内耳のため、食事は嚥下障害・誤嚥のリスクのため介助が必要であるが、自分でできそうなところは教えながらやらせるようにする。

行事や活動へは、多少体力的に無理な時と、てんかん発作が多い時期を除いては、できるだけ同学年の児童と同じように参加させる。



職員室であいさつ



入学式で「さんぽ」♪



学習発表会で「かさこじぞう」



休み時間に描いた猫の絵

6 研究経過と結果

研究の視点	学習内容	1年目	2年目
(1) 各教科・生活単元学習などの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・国語 ・算数 ・生活科 ・体育、音楽 ・図工、生活単元学習 ・日常生活の指導 	<p>絵カードを見て、平仮名カードと照らし合わせることができた。「あり」「りんご」など30語ほど)しかし、言葉を一つの形として理解しているようで、平仮名ブロックを使用して言葉を表すと、「りんご」は「ごりん」になったり「んごり」になったりする。</p> <p>数は「1」と「2」の量と数字は理解できたようだ。生活単元学習での「ごっこ」遊びは大好きで、買い物などはカゴを持ってそれらしくやり、レジで会計する様子もまねしてできている。支払うお金を「30円」と書いて見せると、10円玉を4個置いたり2個になったりする。</p> <p>絵は○が描けるようになってきて、○を使って雪だるまなど描いた。工作ではセロテープを切って紙などに貼ることができるようになって、よくやっている。</p> <p>トイレはではトイレトペーパーを取ることが難しく、手洗いや歯磨きも手を取ってやらないとうまくできない。うがいは全くできない。食事は一人では上手にできない。(うまく口に運べない)</p>	<p>生活に必要な言葉は、聞いて又は手話で大体理解するようになった。また絵カードと文字カードを合わせられる数も増え、70語ほどになった。しかし、やはり単語の音節がなかなか正確には捉えられない。</p> <p>簡単な平仮名を書けるようになった。「こ」「つ」「い」など自分の名前と「ママ」も書けるようになった。</p> <p>数については、「5」までの数を学習したが、正確に数えられるのは「3」までである。数字は「0」「1」「3」「4」「6」「7」などが書けるようになった。</p> <p>体育や音楽は、協力学級のみなどと一緒に活動できる時間が増えた。</p> <p>図工で動物を作ったりして喜び、それを見て○を使って猫の絵を描く練習をした。そこから猫や人を描くようになった。</p> <p>日常生活の指導については、特に授業時数では取らず、休み時間や給食前後に教えたり手を取ったりしてやらせた。食事はスプーンやフォークを使って自分ですくったり刺したりして口に持っていくようになった。</p>
(2) 自立活動 ① 3学級合同の自立活動 ② 担任と1対1で行う自立活動	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ ・絵本や紙芝居の読み聞かせ ・散歩 ・ダンス ・ゲーム ・ソーシャルスキル ・運動 ・発音練習 ・手話練習 ・手話歌 ・手指の運動 ・手足の運動 	<p>手話で自己紹介ができるようになり、ダンスやゲームも楽しんでいるが、全部できるわけではなく、ルールもよく理解はしていない。教師と一緒に動いてやって、何となくできる感じである。</p> <p>ソーシャルスキルは絵を見て、いけない行動の絵に手で×を作って表現する。</p> <p>口先をすばめて息を吹き出すことが難しく、ろうそくの火は何とか消せるが、ストローでの息ふきや笛吹きはできない。はっきりと声を出して発音できるのは、「あ」と「ま」位である。</p> <p>体を動かすことはだいぶできるが、指示通りの動きは難しい。また左手指の動きはとても悪く、指先で紙を掴むのも難しい。見て分かる手話は、「赤」「青」など数個である。</p>	<p>1年目よりも手話歌を多くするようにした。歌の前に簡単な手話を単語毎に教えたことにより、Aさんも意欲的に覚えるようになった。スピーチで少し手話を使うこともあった。</p> <p>絵本や紙芝居の読み聞かせでは、読んでいる人の声で単語を聞き取れるようになってきた。</p> <p>散歩では、歩くだけでなく、走ったりブランコをしたりするようになった。</p> <p>笛を吹くことはやはりできず、口の動きは悪いままである。そのため、発音もなかなか進まず、「あ」「ま」の他「ば」「ぱ」が聞き取れる音声である。</p> <p>手話は自己流で正確ではないが、「好き」「食べる」「遊ぶ」「勉強」「お母さん」など、10以上は表現できるようになった。また指文字を見て、それが平仮名の何を表しているのかをだいぶ理解できるようになっている。</p>
(3) 日常生活、行事・活動への取組	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・行事、活動など 	<p>先生方にあいさつするのが楽しみで、毎日職員室へ喜んで行く。いつも笑顔であいさつし、ある先生の髪型が変わっていることなどに気付き、そのことを指差して表現しようとする。</p> <p>運動会や学習発表会、持久走大会など、練習は他の児童と同じ時間参加できないが、本番に向けてAさんのできる限りの内容で取り組み練習した結果、本番はしっかりと参加することができた。他の友だちよりは短い距離であるが、笑顔で走った。</p>	<p>人に会うと笑顔であいさつし、丁寧に挨拶することが得意である。大好きな友だちには抱き着いたりして好きなことを表現するが、嫌いと思ったりすると相手を叩いたりする。</p> <p>自分の気持ちが伝わらないと、物を投げたり蹴ったりする。</p> <p>運動会や学習発表会への取組は1年目と同じ感じであるが、持久走大会では、同学年の友だちと同じ距離走り、拍手をもらって喜んでいた。その他、入学式や終業式、避難訓練や校外学習など、すべての学校行事に参加した。そして、学年や全校の友だちと関わりながら活動することが好きな様子であった。</p>



平仮名カードで言葉の学習



学習パッドで「かめら」



文字カードで言葉の学習



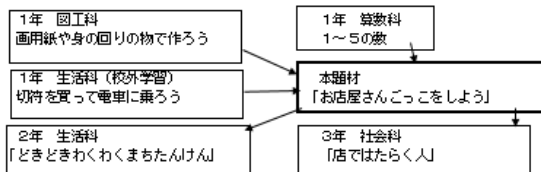
数「1～5」の学習

《生活単元学習 「お店屋さんごっこ」指導案より》

生活単元学習「お店屋さんごっこ」1年生 指導案より
【本題材の指導の流れと手立て】

- 手立て1：児童の意欲を重視し、作りたい物を作らせる。
《手指の運動、目と手の連動》
- 手立て2：コミュニケーションを意識しながら活動させる。
《手話・指文字（数）、発声、身振り等》
- 手立て3：人とかがわることの楽しさを感じさせながら活動させる。
《人間関係の形成、コミュニケーション》

【他教科・領域との関連】



【指導計画（10時間扱い、本時 5/12）】

活動名	学習内容	時間	評価規準
いろいろなお店屋さんを作ろう	・どんなお店があるか思い出す。 ・どんなお店を作りたいか考える。 ・作りたいお店で売っている物や看板を作る。	3	関作りたいお店を考えることができたか。 関はさみやのり、紙粘土やクレヨン等を使って、品物や看板を作ることができたか。
お店屋さんごっこをしよう (本時)	・買い物へ行く時に必要な物を準備する。 ・買い物する時の簡単な会話について練習する。 ・お金の教え方、支払い方を練習する。 ・交代してお店屋さんになったりお客さんになったりして遊ぶ。 ・もっと必要だと思った物を作る。	5 (本時5分)	関手話や音声で簡単な会話をすることができたか。 関お金(10円玉)を1～5まで数えることができたか。 関意欲的にお店屋さんごっこを楽しむことができたか。 関物を買う時や食事の後にお金を支払うことができたか。
お友だちを招待しよう	・友だちにとってあげたい物を考え、教師と一緒に作る。 ・友だちを招待して、作ったものをおもちゃのお金で買ってもらう。	4	関友だちにとってあげたい物を考えることができたか。 友だちに感謝の気持ちをもつことができたか。

7 結果からの考察

以上の経過・結果から、Aさんの成長をまとめ、今後に生かせる能力の可能性を考察してみたい。

《入学時、できなかったことがどの程度できるようになってきたか》

同学年の平均的な児童と同程度できることを100%とした場合 ○(50%以上) △(20～40%) ×(10%以下)

項目	入学時できなかったこと	上達度
健康の保持	洗顔，歯磨き，うがいをする。 スプーンやフォーク・箸を使って一人で食べる。 ストローやコップでこぼさずに飲む。 前歯で噛み切る，すすする。 着替え，入浴，トイレでおしりを拭く。	× △ △ × △
心理的な安定	やりたい事を我慢する。 感情をコントロールする。	× △
人間関係の形成	ルールを守る。 みんなと同じ活動をする。 欲しい物を我慢する。	× △ ×
環境の把握	音がどの方向から聞こえるか分かる。 今何をする時かを判断する。	△ △
身体の動き	跳ぶ。一人で階段を上る，下りる。 左指で物をつかむ。 はさみで切る，紙を折る。 絵を描く，字を書く。 本を1ページずつめくる。 ズックを履く。 ボタンをはめる，はずす。 チャックを閉める，開ける。 ボールを受け取る。	○ △ ○ ○ △ ○ × △ △

コミュニケーション	人が話している内容が分かる。 手話が分かる、できる。 話す。 平仮名が読める、書ける。 片仮名が読める、書ける。 自分の言いたいことを何らかの方法で伝える。	△ ○ (含む指文字) × ○ △ (読む方) △
その他	自分で並ぶなど、集団行動ができる。 自分で判断する。 時刻・時間が分かる。	△ × ×

ここから見てきたことは、平仮名を読む・書くことを、だいぶ身に付けていることである。また手話や指文字の理解については、予想以上の上達である。将来、筆談や手話で会話ができる可能性が高い。しかし、うがい・発音など、口の動きを必要とすることに関しては、なかなか上達が見られない。発音については、しっかりと発音できる音は「あ」「ま」「はい」「ば」「ぱ」のみであり、「話す」ということは、なかなかできないものと予想する。また、相手の気持ちを考えることや、社会的なルールの理解、常識的な判断という点で、難しいところがあり、行動のほとんどは自分の思いのままにするといったところがある。常識をなかなか理解できないということは聴覚障害児に多いことで、聴児のように普段から周囲の音や声が聞こえている子とは大きな差がでるようである。社会的常識については、家庭と協力して時間をかけてゆっくり教えていく必要がある。



8 今後の指導について

入学時はクレヨンで絵を描くことも、はさみで紙を切ることもほとんどできなかつたし、会話も難しかったAさんである。一つのことができるようになるまで、根気強く取り組むことで、いつのまにか人や猫の絵が描けるようになった。また平仮名で名前も書けるようになった。覚えた言葉の数や手話の数も増えた。Aさんには人と関わりたい、楽しく活動したいという気持ちがあり、ほめられるように頑張るという意欲もある。この意欲を大切に、もっと手話や文字で表現できるようにさせたいと考える。そこで、今後も自立活動と国語科を中心に教育課程を編成したい。3学年からでてくる理科・社会・総合的な学習の時間の学習では、体験活動を生かし、教科書や絵カード、文字、手話を使って、社会自然事象を理解させていく。

教科・領域	指導のねらい	学習・活動内容の大体
国語	語彙数を増やし、読める・書ける文字を増やす。 簡単な漢字の読み書きができる。(本人の意欲に応じて)	文字や文章を読む・書く。 学習パッドを使って言葉を音声にして表現する。
算数	理解できる数・書ける数字を増やし、5以下の数の加法・減法が分かる。時計を読める。(デジタル)	具体物・半具体物を使って数や加法減法、時間を理解する。
理科・社会	教科書の内容の大体について、言語の理解と共に社会・自然現象が分かる。	体験活動を生かし、絵と文字・手話で理解していく。
他教科	(これまでと大体同じ)	(これまでと大体同じ)
自立活動	分かる・できる手話を増やし、手話で会話ができる。 食事や着替え、歯磨き、うがいなどが自分でできるようにする。 発音できる語を増やす。 良い事悪い事・社会の常識について理解する。	手話会話を練習する。 食事などは時間をかけても、自分でする。 発音練習を繰り返す。 ソーシャルスキル学習を継続する。

高学年になったら、「自分でトイレ」「自分で食事」を目標に何とか頑張らせたいと考える。そのためには、一つ一つの活動を、時間がかかっても自分でさせることが必要であろう。しかし、Aさんは「自分はそれはできない」と思っていることをすることをとても嫌がる。特に、口を動かすこと、食事やうがい、歯磨きなどである。今後は、その指導の仕方についても、色々な方法を試してみたい。無理そうなことを続けるのではなく、「今できそうなことは何か」を見極め、スモールステップで進めていき、そこからまた新しい「できそうなこと」を見付けていく。そして「できそうなこと」を



きるようにさせ、「できること」を増やしていき自信をもたせること、それが A さんの成長に大きな効果を与えている。

7 おわりに

特別支援教育は、その障害と実態ニーズに応じて指導内容を考え、変更を加えながら根気強く指導を続けていくことが大切である。公立小学校でも、特別支援学級の児童は特別な教育課程を作成して実施していくことができる。しかしほとんどの公立小学校では、特別支援学級でも週の指導計画は同学年の児童とほぼ同じように時数をとっていくことが普通であるし、学校行事でも同学年の児童と同じように活動させることが多い。本児は難聴であることだけでなく、知的障害も重く、左手足の軽度麻痺があることから、公立小学校で他の児童と同じように活動を行っていくことは、大変なことであるように思えた。しかし、小さいうちだけでも兄と一緒に地域の学校に通わせたいという家族の強い思いと、何とかそれに応えようと検討を重ねた教育課程の工夫が功を奏した。無理だと思っていた運動会の閉会式にも最後まで参加できた。2年生の時には、持久走大会で他の子と同じ距離を走ることができた。学習発表会では手話を使いながら声を出したり、踊ったりできた。地域の人々はそんな A さんの頑張る姿を見ている。祖母と母と兄と4人暮らしの本児であるが、本児が将来この地域での生活を続けていくとすれば、恐らく地域の方々が温かく見守り、心良く手助けしてくれることであろう。



*本論文は、家族の承諾を得て、掲載しています。

<参考文献>

- ・「聴覚障害教育これまでとこれから」(コミュニケーション論争・9歳の壁・障害認識を中心に)
脇中 起余子 著 北大路書房
- ・「特別支援学校教育要領・学習指導要領開設 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)」
文部科学省
- ・「知的障害教育の手引き 第18週 一進路指導の実際」
宮城県特殊教育研究会知的障害教育専門部